

会 議 結 果 の お 知 ら せ

令和８年度第２回宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会を次のとおり開催しました。

令和８年７月２日

宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会

- 1 開催日時
令和８年６月１２日（金） 午後４時～午後５時３０分
- 2 開催場所
宮古市役所本庁舎 ２階 ２－１会議室
- 3 議題
第３期総合戦略評価について
- 4 会議の概要
別添のとおり
- 5 問い合わせ先
政策推進部政策推進課政策推進係 電話０１９３－６８－９０６４

令和8年度第2回宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会

1 出席者（10名）

和川央、花坂雄大、三河輝夫、福士明美、及川洋祐、古舘龍太、晴山純子、中沢翔馬、川口太嗣、三浦宜央

2 欠席者（9名）

石崎武久、中嶋一幾、渡部玲子、小野寺康仁、前川竜介、門坂道弘、大洞健一、菅原結奈、渡邊聖奈

3 事務局出席者（3名）

政策推進課長 大向守、同課政策推進係長 竹田真吾、同課主任 佐々木英明

4 傍聴者

なし

5 議事等

第3期総合戦略評価について

第3期総合戦略評価の実施手法について、外部ヒアリングを取り入れることについて事務局より提案し、実施方針について承諾された。質疑等は別紙のとおり。

質疑応答内容

質問・意見	回答
【議題「第3期総合戦略評価について」】 (委員) 今回の説明資料において、ヒアリングのなかで「評価」という言葉で表現されている。ヒアリングの場において、対象事業の廃止・縮小などを査定するといったものではなく、あくまでもヒアリングの場では意見を述べる場という理解で良いか。 (委員) どの事業を対象にするかブラックボックスに見えてしまう。辞めたい事業を辞めるためなのか、より良い事業をよくするためにやりたいと思っているのか事務局の思うとおりに進められてしまうのではないかという怖さがある。また、評価するためには一定の専門性が必要になるのではないかと思う。意見が意思決定に反映されるので整理が必要なのではないか。 (委員) 初年度から全て完璧にやるのは難しいことから、まずは試行的に始めるということもやり方として間違いないかと思う。一方で事業選定も委員会で実施するという選択肢も検討して良いかと思う。 内部評価に対して外部の視点を入れたいという問題意識があるなかで、内部評価に基づいた選定というのはベストではないかと思う。今年度の選定については理解するが、期待される効果が発揮されない可能性がある	(事務局) お見込みのとおり。ヒアリングの現場でただちに事業査定を行うものではない。委員にはそれぞれの所属の立場から、または一市民の目線で事業に対して意見を述べていただき、それらを勘案した上で市において事業の2次評価を行う。 (事務局) 事業の選定については、事務事業全体で300事業弱事業数があり、すべての事務事業のヒアリングを実施することは現実的ではないので事務局側で選定を行うということと考えている。 指標の達成状況に乖離がある事業であったり、公共性が比較的高くない民間でも代替可能な事業であったりといった部分で一定の基準を事務局で設けて実施したいと考えている。事業選定はあらかじめ基準を設けてしまうと、ヒアリングの予定事業数を超えてしまう可能性があるので、試行的に実施するということもあり今年度については事務局選定ということにご理解をいただきたい。

質問・意見	回答
ることは認識した方がよいと思う。 (委員) ヒアリングに入る前にヒアリングの事前練習といったように、何個か評価をしてみ、ヒアリングの精度を高めるということができると良いかと思う。 (委員) 事前にヒアリングの練習を行うというのは時間が許すのであれば協力したい。評価を行う以上、それなりのインプットは必要になるかと思う。一般市民としてだけでなく各団体からの代表として選ばれて活動しており、専門性のあるところから見る必要性はあると思う。一般市民ではないという点は明確にしてもらわないと何が委員に期待されているか分かりづらいと思う。 (委員) これまで総合戦略をマクロ的に見て評価を実施してきたが、総合戦略におけるマクロ的な評価を差し置いて、総合計画の個別事業のミクロ的な評価をすることに違和感を感じる。 (委員) ヒアリングは事前に委員に対して、設定した日時を示して、そこに参加可能な委員が集	(事務局) これまではマクロ的な評価を実施し、指標の達成状況を共有したところで、具体の事業の取組が見えにくいから意見を出しづらいという意見があり、そこは反省するべきだと事務局側も感じていた。 事務事業の行政評価に外部意見を取り入れたいという意図に加えて、総合戦略評価の体制を強化していくためにも、一度事務事業単位で見ていただき、それらの事務事業単位の評価を積み重ねたうえで、総合戦略のマクロ的な視点の評価検証に活かしたいと考えている。その評価検証にあたっては集合形式の委員会を開催したいと考えている。 (事務局) お見込みのとおり。希望調査のなかでヒアリング事業の希望分野をお聞きし可能な限

質問・意見	回答
まれば開催するという考えか。 (委員) 対象事業をどのように設定するかという部分が疑問に思う。現場での課題感と市の課題感はずしも一致しているとは限らない。事業選定の条件を先出しするのが難しいことは理解する。事業選定において、評価対象外の事業を委員会において、評価対象とする余地を残したほうが良いのではないかなと思う。 (委員) 市としての課題感を示して欲しい。評価の方向性や、評価の精度を高める必要がある。 (委員) どう評価するかというより、何を評価するというのが議論になっている。評価のために市職員が残業するというのは本末転倒になってしまう。試行段階だと思うので次の課題につなげられるよう無理のないよう実施して欲しい。 (委員) 事業選定について、50事業を委員会に示してその中から選ぶ形式なのか、事業名だけ記載して、選択するような形式なのか。ある程度内容が見えないことには選択することが難しいと思う。	り、希望分野に一致するヒアリングとなるよう調整したい。委員の皆様は様々な団体から、それぞれの立場で参加いただいている。所属団体での知見に加えて、市民目線での意見も頂戴したいと考えている。全てを希望通りに調整はできないことはご理解いただきたい。 (事務局) 選定基準のなかに目標値と実績値の乖離が大きい事業、改善の余地が大きい事業を選定するつもりで考えている。対象事業をリストアップして、ヒアリングの前に確認の場を設けることができるか調整したいと思う。 (事務局) 調書ではヒアリングを希望する分野を記載していただき、事務局で選定した50事業に希望が合うように委員を配置する形式を考えていた。先ほど、対象事業外の事業を選定できる余地があったほうが良いとのご意

質問・意見	回答
(委員) ヒアリングシートは1事業について、1枚作成しており、対象外の事業についても作成されているという理解で良いか。	見もあったので、選定対象外の事業を事前にお示しし、事業対象に加えるといった対応については、ヒアリングまでの限られた日程のなかで対応できるか検討する。 (事務局) 現在、内部評価を実施しているところで、同時並行で委員の皆様に日程のご希望をお伺いし、事業選定も行う想定でいる。試行錯誤をしながら実施しており、タイトなスケジュール感で進めているところ。 今年度の結果により、最終的に事務事業の一覧を共有することはできる。次年度以降は特定の事務事業を個別に選定いただくことは可能と考えている。
(委員) 初年度は試行的に実施することに労力が割かれることになり、さらに事業選定というところまでは手が回らない状況かと思う。今年度は最小限の取り組みとして、次年度以降、委員会でも選定できる体制として欲しいと思う。今年度は事務局に任せる方向で良いかと思う。	
(委員) 方針としてまず実施してみるという方向は反対していないが、進め方について気になる点をご指摘させていただいた。ヒアリングの体制について、対象事業を見たいという希望を妨げることになるので、1事業あたり3人前後という制約は必要ないかと思う。	(事務局) 1事業あたり3人と資料に記載しているのは、日中の活動となるので、委員の皆様の負担感などを考慮した上で、事務局側の希望として3人とさせていただいた。会場の規模との兼ね合いにより、限度はあるが多少の人数の前後は生じると思う。委員お一人でヒアリングに出席ということが無いように調整したいと考えている。
(委員) ヒアリングを受けるにあたり、事業に関す	(事務局) 担当課の負担感なども考えると期日を指

質問・意見	回答
る事前情報をいただくことが、事務局、担当課の事務量的に可能なのか。 (委員) 継続事業において成果が低迷している事業を評価するにあたっては、その事業を始めた背景、課題感が重要になってくるので、無理のないところで資料準備をお願いしたい。 (委員) ヒアリングの前に事前質問を委員からお送りさせていただいて、当日のヒアリングの中で返答してもらおうということはないか。 (委員) ヒアリングの進め方について建設的な意見はでていますが、実施することに関して否定的な意見はでていないので、そもそも実施することに関して意見はあるか。 (委員) 事務事業をみることは良いかと思ったが、なぜ今回このタイミングで、課題感を持って事務事業に外部評価を取り入れるという判断となったのか。	定しての提供は難しいかと思う。一部の担当課に偏りが出る可能性もあるので、負担を分散するための調整もさせていただく。 評価シート1枚ではどういう事業なのか分かりにくい部分があるので、少なくともヒアリングまでには補足資料を準備できるようにしたい。 (事務局) 事務局としては、共有できている内容が薄いなかで評価の判断をするのが難しいと思っていた。これまでも評価結果を担当課に共有してきたが、マクロ的な評価で反省しきれているのかという課題感があった。 行政評価は震災以降、内部評価のみで実施してきており、この事業は必須だというような事業担当課の考えが一番強くあり、予算編成を迎えるということがこれまで続いてきたということが宮古市の課題点と思う。

質問・意見	回答
(委員) 事務局からの提案について、広範な修正等あるかと思うが、大きな方向性について異議はないか。	この課題を解決するために、委員会を通じて、外部の方から意見を聞く場を設けたいと考えた。委員会はそのような意見をいただく組織体として機能させることができれば良いと思う。 ※一同、異議なし

以 上